

堺市博物館 フォーラム

「中世都市・堺の景観を考える 黄金の日々の堺はよみがえるか？」を開催します

堺市博物館では、フォーラム「中世都市・堺の景観を考える 黄金の日々[※]の堺はよみがえるか？」を開催します。

※「黄金の日日」は城山三郎原作のNHK大河ドラマ（1978年放送）によって定着した中世の堺に対する表現及びイメージであり、本フォーラムでは、繁栄した中世の堺を示す語として使用しますが、ドラマと直接的に関連させる意図はないため「日々」の字を用いています。

- 1 概要 堺は、海に面して立地し、陸海の流通拠点として栄えた町です。文明元年（1469）には遣明船が入港して海外も商圈に含むようになり、16世紀後半以降は火縄銃や弾薬の販売でも利益を得ました。富裕な町衆の活躍の舞台となった中世都市・堺ですが、慶長20年（1615）、大坂夏の陣の前哨戦で豊臣方に焼き討ちされ、その「黄金の日々」は終焉を迎えました。堺は戦国武将が主人公の時代劇にもよく登場します。しかし、当時の堺の景観は学術的には不明点が多く、具体的なイメージを結ぶことが難しい状況です。

今回のフォーラムでは、発掘調査成果や絵画資料、古文書などに基づき、中世の堺の景観について考えます。堺市博物館の美術・考古の学芸員2名に加えて、建築史・文献史の研究者2名を招き、異なる分野からのアプローチを試みます。さらに、この4名の座談会により、中世都市・堺の景観をどこまで明らかにできるのか、その可能性を探ります。

- 2 日時 令和6年11月17日（日） 午後1時30分～午後4時（午後1時開場）

- 3 場所 堺市博物館ホール（堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内）
交通：JR 阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ約500m
南海バス「堺市博物館前」停留所下車 南へ約280m

- 4 定員 80名（要事前申込）

- 5 申込方法 堺市電子申請システム、又は往復はがき
詳細は、堺市博物館ホームページをご覧ください。

URL：<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/play/event/forum.html>

申込期間：10月7日（月）～11月6日（水）必着

6 参加費 無料

7 次 第

第1部 午後1時30分～午後2時50分

報告① 慶長期以前の堺の町を考える

講師：白神典之（当館学芸員）

内容：これまでの発掘調査成果を中心に、大坂夏の陣以前の堺の町を考えます。どこまで分かっているのか、どこまで言えるのか、できるだけ大胆にお話します。

報告② 絵画資料に見る堺の町

講師：宇野千代子（当館学芸員）

内容：「住吉祭礼図屏風」には、堺の町が詳しく描写されています。2つの「住吉祭礼図屏風」（堺市博物館所蔵、サンフランシスコ・アジア美術館所蔵）をとりあげ、絵画資料から堺の町の景観について考えます。

報告③ 港湾都市イメージの源流、堺

講師：高屋麻里子氏（滋賀県立大学 講師）

内容：異なる世界に接する場所は変化を受容して新しいものを生み出すことが知られています。世界との接点である港湾都市が生み出してきた新しいもの、新しい建築が、その後の都市を変革してきました。現代にも引き継がれる、中世堺が与えた歴史的なインパクトについて、建築を通してお話します。

報告④ 中世後期堺の都市社会と「まち」

講師：大澤研一氏（大阪歴史博物館 館長）

内容：中世後期の堺は、高い交通機能・経済発展を背景に、寺社、武家、商人、職人など様々な勢力・集団・階層の人々が影響力を及ぼし、活動の拠点化を目論む大都市でした。彼らが堺の「まち」の形成と変容にどのように関わったのかを考えます。

第2部 午後3時～午後4時

第1部の講師4名による座談会

テーマ：「中世都市・堺の景観を考える 黄金の日々の堺はよみがえるか？」

問
い
合
わ
せ
先

担 当 課：文化観光局 歴史遺産活用部 博物館 学芸課
電 話：072-245-6201
ファックス：072-245-6263